

平成 29 年度地域ぐるみで  
国立曾爾青少年自然の家主催事業  
曾爾高原耐久リレーマラソン

## 1. 目的

チームで励まし合いながら、早春の曾爾高原を気持ちよく走り、心身共に健康の増進とチームの結束を図り、同時に走る楽しさを参加者みんなで共有する。



## 2. 実施日

平成30年3月17日(土)～18日(日)

## 3. 対象

曾爾高原スカイライン(一周1316メートル)を走りきることができる小学生以上の家族・グループ。

## 4. 参加者(参加チーム数) /

募集定員(募集チーム数)

78名(11チーム) / 400名(70チーム)

## 5. プログラム(要約)

3人から13人のチームがリレーしながら、6時間・4時間でお亀池周辺(一周約1.3km)を何周走ることができるかを競う。

## スケジュール

3月17日(土) 1日目

オリエンテーション

自由時間(コース確認、散策、アスレチックなど)

夕飯のつどい

夕食

自由時間(卓球、星空観察、ナイトハイクなど)

3月18日(日) 2日目

朝のつどい

朝食

開会式

6時間の部

4時間の部

フードコーナー開設

閉会式・表彰式

## 【1日目】

オリエンテーションで、リレーマラソンの実施方法や館内の利用方法について説明をした。その後の自由時間で、コースの確認をしたり体育館などで軽く運動をしたりチーム毎に自由に時間を過ごした。

夕食後も各チームで研修室や体育館で過ごした。

## 【2日目】

朝食後、各チームでエイドコーナーを設け、9時に6時間の部の5チームがスタートをした。ほとんどのチームが一周ごとにリレーを行い、一周を5分から6分というとても速いペースで走った。一周ごとのラップタイムをホワイトボードに記録して周回数を各チームで計測した。



11時に4時間の部の6チームもスタートを切った。4時間の部は、小学校の低学年の児童を含めた家族チームも多かった。7歳の子どもと50歳位の大人とが一緒に走る場面も見受けられた。どのチームも目標周回数を目指して走り続けた。11時30分から1階ロビーにカレーやうどん・唐揚げなどのテイクアウト可能なフードコーナーが設けられ、参加者は、交代で昼食を食べながら走った。お昼過ぎから、各チームに疲れも見え始め、目をつぶって寝そべって休憩する姿や、ストレッチをして筋肉をほぐす姿などが見られた。

終盤「ゴールまで、残り1時間です。がんばりましょう。」と声をかけると、「おお！」という返事も返ってきた。終了時間がせまると共に、チームの枠を越えた絆も生まれ、会場に一体感が芽生えてきた。



ゴールの15時まで残りあと数分。ラスト一周の場面になると、どのチームも全員で並んで最終ラップに向かった。そして、どのチームもゴールテープを全員で手をつないで切った。

## 6. まとめ

天候に恵まれ、穏やかな春の日差しの中、曾爾高原を満喫しながら、どのチームも途中リタイアすることなく時間いっぱい走りきることができた。優勝チームは6時間で約90キロメートルを走りきった。参加者からは「坂がきつかったですが、曾爾ならではのいいですね。」「天気もよく、最高でした。2回大会もよろしくお願ひします。」という概ね高評価を頂いた。2回大会に向けて、さらに走りやすく安全性を高めることが出来るようにコース整備も進め、リピーターの参加者が増えるように大会を育てていきたい。

(企画指導専門職 田中 耕司)